

講義名	広域行政論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	村上 友章／岸野 啓一		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>【主題】 広域行政に関する概念や基礎的な事項に関する理解</p> <p>【概要】 地方自治体（都道府県や市町村など）は、住民の日常生活に必要な行政サービスを提供する重要な役割を担っている。近年、交通体系の整備や情報通信手段の発展に伴う住民の活動範囲の広域化、少子高齢化や環境問題の深刻化などに起因した行政課題の高度化・多様化などに伴い、複数の自治体が相互に連携して広域化・多様化する諸問題に的確に対応する必要がある。こうした背景のもとで、この授業では、地方自治制度について概要を説明したあと、広域行政の必要性や広域行政の手法や制度について説明する。また、具体的な広域行政の政策例を示すことを通じて、広域行政に対する理解を深める。</p>

到達目標
<p>1. 地方自治体による施策や行政サービスは日常生活に密接に関連するものであり、地方自治に関する基礎的な事項について理解する。 2. 広域行政の背景や必要性について理解するとともに、広域行政の制度や手法について理解する。 なお、卒業後の進路として自治体職員を志望する学生諸君には、実際の職務に関連が深い内容が多いため、積極的な履修を勧める。</p>

提出課題
<p>レポートや小テスト、その日の授業内容に関する演習を行う。（7～8回程度）</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>提出課題に対する全体的な講評を、適宜、授業時間内に行う。</p>

評価の基準
<p>レポートや小テスト、前半部確認テスト、定期試験を合わせて70点、平常点（授業内容に関する演習の成績）を30点、合計100点満点で評価する。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>積み上げ型の授業ではないが、授業内容は日常生活に密接に関連するものであり、課題演習などに取組みながらその内容をきちんと理解してもらいたい。そのために、授業への出席と積極的な参画を強く奨励する。</p>

教科書
<p>. 使用しない。</p>

プリント資料及び参考文献
<p>授業の際にプリントを配布する。参考文献があれば、授業時間中に紹介する（またはコピーを配布する）。</p>

授業計画
<p>（地方自治の仕組み）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、地方自治制度について 2. 地方自治体の組織と役割 3. 地方自治体の財源と予算 4. 議会と選挙 5. 政策立案のプロセス （広域行政の仕組みや手法） 6. 広域行政の必要性 7. 市町村合併 8. 広域連合 9. 前半部の確認テスト 10. 連携中核都市圏構想 11. 定住自立圏構想 （計画策定と施策の実施） 12. 国土計画 13. 自治体の定める総合計画 14. 広域行政による政策事例（1） 15. 広域行政による政策事例（2）、全体まとめ <p>定期試験</p> <p>（担当）第4回・第5回：村上、それ以外：岸野</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>配布したプリント等に基づく復習（1時間程度）</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用
<p>実務経験あり 自治体との業務で得た知見や事例などを、授業で紹介することにより、具体的な理解の促進を図る。</p>

備考